



神社本庁
「過疎地域神社活性化推進施策」指定神社
期間：令和三年七月一日～令和六年六月三十日



ともかき

第 28号

発行：妻垣神社社務所
宇佐市安心院町妻垣 203 番地
発行日：令和 5 年 12 月 23 日
電話：0978-44-2519
http://www.tumagakijinnjya.com

↑ 神社本庁過疎対策の助成金を活用して、神輿の御幌と鈴、トラックの腰幕とのぼりを新調しました

4年ぶりに地域を巡行する3基の神輿

去る十月二十八・二十九日、恒例の秋季大祭が斎行されました。当社の秋祭は例祭と神幸祭を二日間で実施し、そのうち神幸祭は四年ぶりの斎行となりました。斎行にあたり、九月の神事寄において、総代・目代・自治委員が集まり、約二時間にわたって協議。過疎が進む中での大祭のあり方等が話し合われました。

妻垣神社の神幸祭今昔

約六八〇年前の嘉暦三年(一三二八)、新田義貞に敗れ九州に敗走した足利尊氏公は宇佐宮にて戦勝を祈願し、当社にて流鏝馬を奉納しました。九州で力を蓄え再挙した尊氏公は、新田義貞・楠木正成を討ち破り、室町幕府を開府。尊氏公は当社に対し神幸祭と流鏝馬をおこなうようお命じになり、当社の神幸祭が始まりました。流鏝馬は二の鳥居から続く参道の馬場にて実施され、昭和中期まで奉納されていました。

記録によると当社の神幸祭は「けんか祭り」とも呼ばれ、神輿をぶつけ合うなどと勇ましいものでした。また疫病がまん延した年は例年以上に賑々しく担ぎ、人々は神様の神威によって疫病を鎮めようとしたのです。



← 各集落に立ち寄り神事をおこなう

多くの課題をかかえながらの秋季大祭

大祭初日、4年ぶりに3基の神輿を出して各集落を巡行しました。巡行路では高齢で神社に参拝出来ない人も家の前で出迎えるなど、久々の神輿巡行は多くの人に喜ばれました。

翌日は十ヶ平神楽社による神楽がおこなわれ、氏子より奉納された餅が6回にわたって撒かれました。以前のような形とまではいきませんが、事故無く終えることができ感謝いたします。今後は祭典の意義を踏まえ、過疎対策に重点をおいた大祭とすべく工夫して参りたいと考えております。



↑ 列を整え時速20キロで進む神輿

← 一晩、頓宮に神輿を納めて、再び本殿へ。

神輿の前にてお発ちの祝詞を奏上する宮司
 ✓十ヶ平神楽社の神楽。神輿のお発ちの前に舞う「神迎」。本殿では「大蛇退治」などが奉納されました。 ↓たくさんの人が餅を拾いました



神社庁神庁長、例祭に参列し、過疎地域活性化対策の助成金を交付

昨年に引き続き大分県神社庁神日出男庁長が秋季大祭初日の例大祭に参列、神社本庁過疎地域神社活性推進施策助成金の交付式が執り行われました。

この施策は令和3年7月より3か年、当社が大分県指定神社として活動を展開しており、本年度が最後の年となります。早速、神輿の御幌や鈴などの新調に助成金の一部を活用し、秋祭りの賑わいに華を添えました。



宮司、神職身分「明階二級」に進級 神社より御祝金を総代長より贈呈

9月1日付けで宮司が神職身分3級から2級へと進級したことを受け、総代会では昨今の情勢を含めつつ、ささやかではありますが御祝金を贈ることとし、秋季大祭に併せて総代長より宮司に進呈されました。

「今回の進級に対して地元の皆様よりお祝い戴くことが何よりも嬉しく存じます。微力ではありますが今後とも祭祀を始め神社の護持に務めて参ります。」と妻垣宮司より御礼の言葉がありました。



特集 人みな神の御子の思想のもと、多くの若者が学んだ

騰宮学館 誕生110年



思想 人みな神の御子

建学の精神

開学 研学 究学

騰宮学館 館歌

仰げば尊と神山や
脚下に深見の川清し
うべ悠久のその古に
帝御饗し址と聞く

その騰宮を名にし負う
われらに神の擁護あり
男の子の道は師に受けつ
さても我らは幸の子や

なに恐るべき先覚の
警鐘つかん武者振らん
只それ一つに人のため
みちや暮らおさおさ

今から一一〇年前、当社の境内に稀有な学校が誕生した。騰宮学館である。当時、山間部には中等教育の学校はなく、近くでも二十キロ先の宇佐中学等に下宿して通うしか方法はなく、裕福な家庭でなければ難しく、一村に三人程度であった。これを憂いた林正木(安心院鳥越出身)は若干二十六歳の若さで学校を創設したのである。

当時は勉学に勤しむより、田を耕せという時代に、林館長はこれからの時代は教育が最も大事であると考え、『人みな神の御子』の思想のもと、貧富、家柄、国籍など問わず、多くの若者を受け入れ、教員の養成、そして全国でも珍しい神職の養成に務めました。

終戦までの三十有余年と短い期間ではあったが卒業生の中には、教員、神職を始め、政財界など幅広く活躍した。

次号では卒業生の回顧録を紹介する。



→現存する最後の卒業写真。最前列中央は横山館長

沿革史

- 大正2年 (1913) 林正木氏(26歳)、中等教育機関として私立「騰宮学館」を創設。
- 大正3年 (1914) 妻垣神社境内内 (1926坪) に校舎が完成し開校する。
 教科…修身・国語・漢文・算術・地理歴史・理科・英語・図画・農業
 生徒定員…予科一年制40名 本科二年制60名 (開校当初の生徒数64名)
 教職員…5名(妻垣常太郎・林幸三郎 他)。
 年間経費…1080円(郡より500円の補助金あり)
- 大正4年 (1915) 当初の普通科に加えて准教員養成科を設置する
- 大正5年 (1916) 准教員養成科優等卒業者に対し、尋常小学校准教員無試験検定の制度が適用される
- 大正15年 (1926) 神職養成科を新設する
 教科…修身・国語・漢文・地理・歴史・数学・生物・物理・化学・体操・(兵式) 教練・祝詞・祭式
 ※神職養成科の者は妻垣神社を始め近隣の神社の祭典の实地奉仕あり。
- 昭和3年 (1928) 優等卒業者に尋常小学校本科正教員の無試験検定の制度が適用される
 登校日…火～日曜日が登校日、月曜日が休日。教育実習は安心院尋常高等小学校。
- 昭和17年 (1942) 2月 林正木館長、逝去(享年56歳)。2代目館長として宇佐神宮宮司横山秀雄氏が就任。
- 昭和21年 (1946) 3月 敗戦により繰り上げ卒業を含めて、在学生全員を卒業させる。
- 昭和22年 (1947) 3月 学制改革で騰宮学館、廃校となる。
- 昭和33年 (1958) 4月 故林正木氏十七回忌を記念して顕彰碑が校舎跡地に建立される。
- 昭和62年 (1987) 6月 騰宮学館の記念碑が、騰宮会によって校舎跡地に建立される。

こじまちから・三原啓資両氏による しかいなみはなご 四海波花籠の実演奉納

→ 別府の名工岩男光雲斎が考案した花籠



四つ目編みを底にし、四辺を波の形に組んでいく

去る9月9日、県内でアートイベントを企画するstrings【ストリングス】(代表阿南ひろみ)による竹細工の実演奉納演奏がありました。

当日はご神前にて祈願祭をおこない、続いて本殿前にて竹藝家こじまちから氏と竹細工職人三原啓資氏の共演による「四海波花籠」の実演が行われました。完成した花籠はご神前にて奉納されました。

→ 東夫妻による竹笛の演奏にあわせて、籠が編まれていく。
アマン竹笛工房：宇佐市院内町に工房を構え、竹笛を制作。



← 金属を熱し、竹に穴を空ける

竹笛奏者アマン東 将寛氏の 縄文笛ワークショップも開催

10月14日には縄文笛のワークショップも開催されました。縄文笛とは10cmほどの長さに4つの穴が空いたシンプルな笛であり、素朴な音を奏できます。当日は県内より30名ほどの方が参加され、各自この世に一つしかない笛を制作。最後には全員で音出しをおこないました。

また、ワークショップの前には県の北部振興局による竹害についての勉強会もおこなわれました。



↑ 秋空に向かって、完成した笛で音を出す参加者たち

妻垣神社オリジナル手ぬぐい制作販売

令和五年は元宮「足一騰宮」創祀二六九〇年にあたります。これを記念して、慶応二年創業の太田旗店より、当社オリジナル手ぬぐいが発売されました。手ぬぐいは上下に元宮の御朱印とイラスト、そして中央には矢野総代長の版画があらわれています。ご購入希望の方は太田旗店内本店もしくは神社にお問い合わせください。

太田旗店府内本店
電話：097-532-5511
住所：大分市府内町1-2-33

1枚 1,540円(税込)

